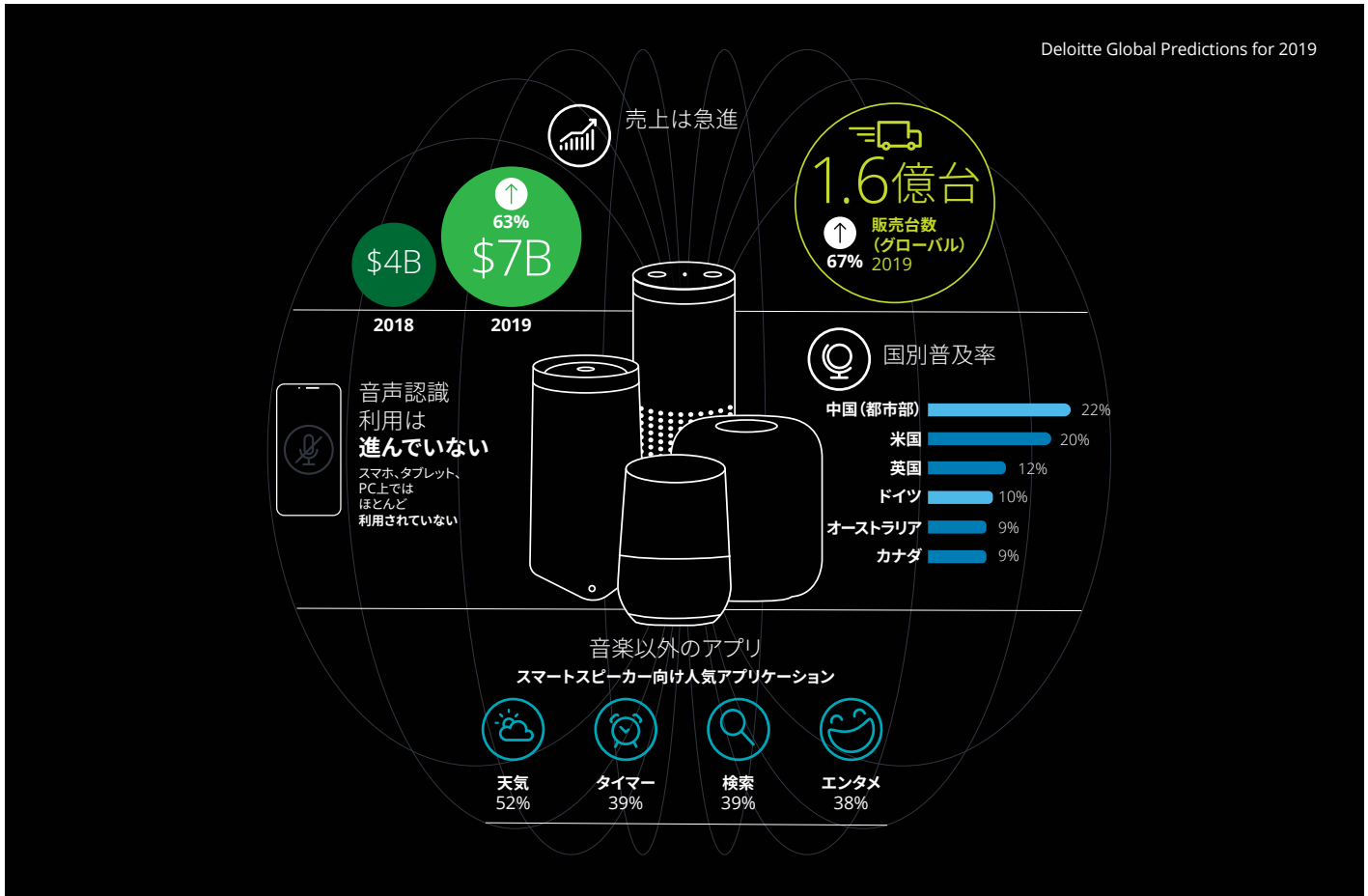


スマートスピーカー

グローバル版：普及は過渡期に



デロイトは、2019年のスマートスピーカー市場規模は前年比63%増の70億ドルに拡大すると予測している。これは1台当たり平均43ドルの価格で1億6,400万台が販売されると想定した際の推計値である¹。2018年の市場については、1台当たり平均44ドルで9,800万台の売上があり、43億ドルの収益があったと推計している。

スマートスピーカーの成長要素

2017年末時点ではスマートスピーカー市場の販売は英語圏に限られていたが²、2019年初頭の段階で中国語、フランス語、スペイン語、イタリア語、日本語など非英語圏での普及が急拡大しつつある。2018年のデロイトの調査では、中国の都市部におけるスマートスピーカー普及率が米国・英国を抑え最も高かった³。

個々の言語に対応したローライゼーションはスマートスピーカーの普及における課題となる。話し言葉は複雑なため、新しい言語や方言に対応する場合は費用と時間が必要になるが、特に中国やインドなどボリュームが大きな地域でのスマートスピーカーの市場性を鑑みると、メーカー側にとっては費用と時間をかけても多言語に対応するメリットはあるだろう。

音声認識の正確性が向上し、様々なデバイスに機能が搭載されるようになったことや、技術革新による機器の複雑性の解消、デバイスあたりの生産コストの低下といった要素も影響し、2019年はスマートスピーカーの販売がより強化される年になるといえる。

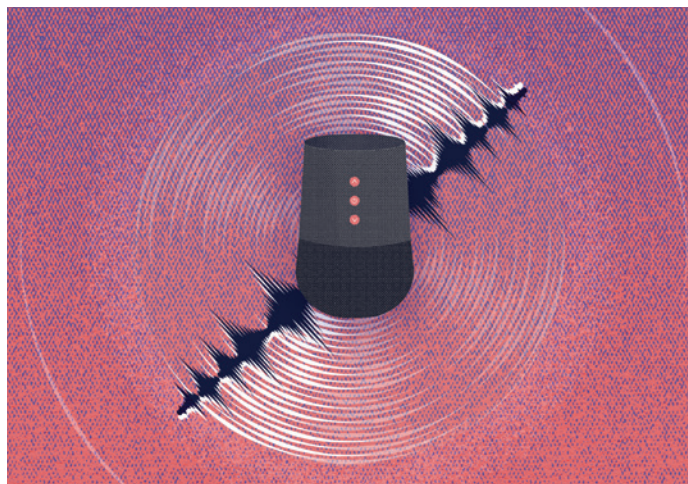
スマートスピーカーには、場合によってはスマートフォンを上回る規模の潜在需要があると考えられる。家やホテルのすべての部屋、ビル内のすべてのオフィス、学校のすべての教室、病院のすべてのベッドに設置すると仮定した場合、数十億台単位の需要が見込まれるのである。

また状況によっては、コンピュータとコミュニケーションする際に、音声で最も自然で生産性の高い方法となりうる。機械操作、タイピングといったビジネスシーンや、子どもを抱いている、料理をしているといった生活シーンの両方で、音声による指示は最も便利なものになるのではないかと。運転中はもちろん、音声による指示が最も安全なオプションになるだろう。

実際、劇場、工場、化学実験ラボ、レストランの厨房などの多くの職場において、現状よりも安全で正確な作業を実施するために、スマートスピーカーが役立つようになるだろう。デロイトでは、長期的にみると職場環境に導入されるスマートスピーカーの数が家庭用を上回ると予測している。

さらに、視覚障がい者がコンピュータを利用する際にもスマートスピーカーが役立つだろう。世界には2億5,000万人以上の視覚障がい者がおり、そのうち3,600万人が全盲である⁴。規模を考えると潜在的市場は大きい。

また、非識字者がスマートスピーカーを利用してウェブにアクセスすることもできる。現状で世界の成人人口のおよそ14%となる約7億人は文字を読むことができない⁵。



市場成長の阻害要因

一方で、急伸しているスマートスピーカー市場の成長は鈍化する可能性がある。初期段階の伸びは、価格プロモーションによって大きく変化した。限られた期間に値引きを設定して販売台数を伸ばした端末もあるが、割引価格は長期的に持続可能なものではなく、制約を伴う需要である可能性がある。

また、現状でスマートスピーカーが高級品的な扱いになっている点にも留意すべきである。英国における調査では、年収の高い層のスマートスピーカー所有割合が高いという結果が出ている⁶。低所得者層のスマートスピーカーの需要を喚起するには、必需品となるような有用な機能が追加される必要があるだろう。

また、その中核技術である音声アシスタント自体の利用が進んでいないことにも注目すべきである。デロイトの調査によれば、スマートフォン、タブレット、コンピュータの音声アシスタントのほとんどが使用されていない⁷。課題は、音声アシスタント機能を消費者に試してもらうことだけでなく、音声認識そのものに対する一般的な関心を高めることでもある。多くの市場で、音声認識機能の利用率は低く、所有するスマートフォンに音声認識機能があることさえ知らない人が多い。また、同調査結果では、スマートスピーカーで最も多く使われている用途は音楽の再生である⁸。スマートスピーカーの有用性は、どのような用途・頻度で実際に使用できるかの幅に依るところが大きいともいえる。

BOTTOM LINE

- 2019年から2020年にかけて、スマートスピーカーの販売は既存ユーザー向けと新規ユーザー向けのいずれも大幅に伸びる。
- それ以降の成長のカギは、音楽を再生したり天気予報などの情報を発信したりするだけでなく、利用できるアプリケーションの数を増やすとともに、音声認識の正確性を高めることである。
- 中期的にみると、スマートスピーカーの利用が機器の音声認識能力の向上につながる。音声認識技術の向上は難易度が高いが、長期的にみると実現によるメリットは大きい。
- 音声認識技術の向上は、すべての人にコンピューティングの利点をもたらす、識字率の向上が前提となっているWebを開かれたものにする可能性がある。

1. The sources for our forecast include Canalys, "Smart speaker installed base to hit 100 million by end of 2018," July 7, 2018, and David Watkins, "Smart speaker price tiers by units, ASP & value forecast by region 2014-2023," Strategy Analytics, July 5, 2018.
2. Futuresource Consulting, "Wireless speakers command 75% of home audio shipments, smart speakers driving growth," January 9, 2018.
3. Deloitte Global Mobile Consumer Survey, June 2018.
4. World Health Organization, "Blindness and vision impairment," October 11, 2018.
5. World Bank, "Literacy rate, adult total (% of people ages 15 and above)," accessed October 21, 2018.
6. Deloitte Global Mobile Consumer Survey, United Kingdom cut (survey fielded in May-June 2018).
7. Deloitte Global Mobile Consumer Survey, June 2018.
8. Ibid.

グローバル本文

Smart speakers: Growth at a discount

<https://www2.deloitte.com/insights/us/en/industry/technology/technology-media-and-telecom-predictions/smart-speaker-voice-computing.html>